

哲学カフェ de ぎふ

せんしゅう

千秋まちかど文庫 通信



運営委員会発行(記録:大橋健司、編集:中川健史)(主宰:吉田千秋 090-7917-9602 yoshida0@sepia.ocn.ne.jp)

第188回哲学カフェ例会(2024.2.11)

《国家予算 本当にこれで良いのですか?》

「国民が納めている国民負担率が50%近いことにあらためて驚きました。もっと税金のとられかた、税金の使われかたに関心を高めなくては。。」

<問題提起> 主宰者:吉田千秋

・通常国会が始まりました。国会審議の焦点は予算関連の審議です。国の歳入の中心となるのは国民の納める税金ですが、皆さんは税金に対して納めているのではなく、取られてしまっていると感じている人もいでしょう。特に現在10%の消費税に対して、納得できない部分もあって、はっきりとした「取られる感」を覚えていられるのではないのでしょうか。税と呼ばれていませんが、私たちはまた医療保険、介護保険など様々な社会保険料を支払っています。財務省の発表に寄れば、色々な形で徴収され国民の負担となっている出費(税+保険料)が個人の所得に対して占める割合を表わす「国民負担率」は2022年度に47.5%なると見込まれています。

・北欧では国民負担率が70%ほどありますが、元々社会保障が充実していて、高い負担でも恩恵があると分かっているため、国民は政府を信頼していて、大きな負担を納得して受けいれていると言われています。それに対して政府に対する信頼の乏しい日本では、国民は全体に税や保険料の徴収をただの負担としか感じることにできないのが現実です。

・24年度予算の歳出、歳入の内訳を少し見ましましょう。問題は、国庫に入るお金、歳入112.6兆円の内、税収が占めるのは60%程で、残りの大部分35.4%が国債発行で賄われていることです。簡単に言えば、国家の財政は相当部分を借金で賄っているということです。歳出の側では、国債費つまり借金の利子が全体の27%を占めています。これは極めて不健全な財政状態です。

・法人税は、戦後の世界経済のグローバル化の中で、

国際的な競争力を高めるとい名目で、段階的に引き下げられてきました。法人税を引き下げれば、当然、国の税収は減少します。歳入の不足を補う

かのように導入されたのが消費税です。その分個人に懸る負担は全体にかなり大きくなりました。

・政府は以前より借金体質の脱却の目標を掲げていますが、財源不足を補うために新たに借金をする状況を脱することはできませんでした。また財政の健全化だけではなく、どのようなことにお金が使われるのかも重要なことです。残念ながら、予算編成からは後ろ向きの姿勢が垣間見えます。日本政府は、これまでのエネルギー政策を維持し、気候変動、温暖化対策に対する配慮を欠いた火力発電に依存する政策を変えようとしていません。また防衛力を高める目標を掲げ、今後数年間で防衛予算を大幅に増やすことを計画しています。国際情勢は緊張の度合いを強めています、国の安全は軍拡ではなくもっと別の方法で確保する必要があります。国の安全はいのちとくらしの安全でなければなりません。何にお金を使うのか私たちはもっとしっかり考える必要があると思います。どうでしょうか。



野鳥の写真は、箕浦岐阜大学名誉教授の提供です

アオアシ

<意見交流>

- * 今あるものはそれなりの理由があってそのような形である。だからそれを大胆に変えることは難しいと思う。隠れているが本当に必要な需要を探して、国民が納めてくれたお金を少しずつ未来に向けた支出に変えて行く。人は幸せになるために生きている。だから誰もが生活を楽しめる世界であるために何が必要かを考えなければならない。個人的には文化や科学にもっと投資をして欲しい。
- * 経済的に強くなれば、軍事的に他国を凌駕できるといった考えが世界に蔓延していて、それが誤った競争を生み、国際関係に緊張をもたらしている。
- * 国際比較で明らかなことは、教育費が国家の予算に占める割合の低いことである。国が教育のために支出するお金が少ないために、人々は子どもの教育のために沢山のお金を使わなければならない。教育を始め子育ての個人負担を減らすことが、深刻な少子高齢化に歯止めを掛けるために不可欠である。
- * 多くの人が日本は文化国家で科学、教育のレベルが高いってイメージを持っているが、国が実際に教育に使うお金は多くない。日本の高い科学や技術のレベルは、政治のお陰ではなく、人々の頑張りで実現されたに過ぎない。
- * 生々しい話だが、今日、役所から去年1年間に自分のために支払われた医療費の通知があった。入院とかあって、なんやかんやで合計81万円になった。自己負担分は11万円だから、70万円は保険から支払われているってことになる。ありがたい



マガモ

話だけど、今後少子高齢化で制度そのものの維持が難しくなって来るのは明らか。

- * 税金も社会保険も高額所得者は額の上で沢山払わなければならないが、負担率は上限があって所得が増えても一定以上には上がらない。だから税金や保険料は手元に沢山残る高額所得者の生活をそれ程圧迫しない。公平な負担なのか疑問である。
- * 高額所得者は生活の場を形式上、国外の税の少ない国に移したり、資産を国外に移したり、合法、時には違法の節税対策を遣っている様に伺われるが、庶民はそういう訳にはいかない。源泉徴収されるか、生活に必要な分しか稼いでいない。
- * 税金は出来たら払いたくない。半ば本気でどうしたら払わないで済ませられるのか考えてしまうこともある。自民党の裏金問題は本当に腹立たしい。誤魔化して、私的に懐を肥やしている政治家もいるだろう。それを思うとどうして徴税を逃れられるのか色々考える。個人事業者であればやり様がある。
- * 政治家は一般市民と金の使い方が全然違っている。金の出入りを帳簿に付けないのだから、何に使われたのか分からない。疾しいことがあるから、明確にしたいということなのか。金の使い道をはっきりさせる必要がある。国民の代表である国会議員だからこそ、他の人よりも確かな規範が求められる。

- * 国は幾らでも国債を発行して税収の不足を補うことができる。お金が無いからお金を借りるってことは一般人には出来ない芸当である。収入不足の者が、借金をすれば、家計はますます苦しくなるだけである。銀行がこういう人には金を貸さない。
- * 国債に関して、2, 3年前からおかしなことが起きている。政府はインフレ対策のためではなく、ただ単に財源不足を補うために大量に国債を発行している。しかしこの方法を用いれば、市場に流通し本来消費や投資に使われるお金を回収してしまうため、消費を抑制したり、企業の資金繰りを難しくし景気を悪くする恐れがある。でも政府は歳入の不足を補うために国債を発行せざるを得ない。この問題の解決策として、日銀は売られた国債を大量に買い取って、市場にお金を還流させている。禁じ手を使ってごまかしている。
- * ただ問題はお金があっても使い道が無いこと。消費が低迷しているから、企業はお金を借りて投資するっていう選択肢がない。他の選択肢は金利の高い外国で金融資産とするか。内部留保金とするかということになる。いずれにせよ、日銀の資産だけが膨れ上がって、日本のGDPを越えてしまう様な状況になっている。
- * 政府のお金の使い方にも問題がある。庶民のためにならない大型事業に税金がつぎ込まれている。オリンピックや万博はマイナス事業で大きな借金が残るだけ。北陸新幹線の様な新規の新幹線建設やリニアモーターカー等の計画は、人口減少で需要の低下が見込まれることを考えると不必要である。政府は能登地震の復興と万博を両立させるといっているが、まったく信用できない。
- * 蓄えもゼロ低金利政策と物価高で目減りする一方である。だから裏金問題は一層腹立たしいが、全体として選挙で自民党を支持して来た国民自身が悪いとも言える。
- * 国全体で借金は1100兆円ほどあるらしい。しかし超低金利で利子の支払いがほとんどないから、庶民の蓄えは事実上目減りするが、政府は返済の負担は抑えられていて余り気にしないでまた借金



カワセミ

するってことになる。

- * 高齢者が増えて、若者が減る、この流れは変えられないと思う。若い人たちが専ら老人を支えるために働くという現実がある。富裕層が節税対策に悪知恵を働かせる一方で、庶民は生活が苦しくても税や保険料をしっかりと納め続ける。若い人たちはとても希望を持ってない。
- * アマゾンとかグーグルは収益率が高く、過去10年、15年程で急成長を遂げた。一番儲けているIT産業は会社の本社名義を法人税率の極端に低い国において法の網をくぐって堂々と税逃れをやっている。
- * 世界中どの国も税収不足に陥って困っている。そうした企業が事業を展開して大きな利益を上げている先進国は、以前より、そうした形の税金逃れを苦々しく思っていた。最近、先進国の間で国内での実際の儲けに税金を掛ける動きが広がっている。
- * これまで、しばしば、富裕層に高い率の税金を掛けると、国外に住居を移してしまうから、高所得者に対する所得税率をもっと引き上げるという方策は機能しないとされた。そうさせない様にする手立てがあるのかないのか。もっと本気で検証する必要がある。



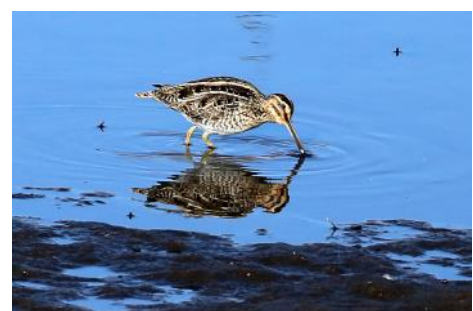


キセキレイ

- * 景気をよくするために何をすればいいのかということであれば、消費税率を引き下げのが一番ではないか。税率が低くなれば、国民の消費意欲は確実に向上する。
- * 海外に輸出して利益を得る企業は、消費税払い戻しの還付金を受け取って、より多くの利益を上げられる。これも海外で儲ける大企業に有利な現実があるという話である。
- * 見方を変えて見てみたい。金儲けを人生の生き方の問題として考えてみるとどうなるか。人は誰でも豊かに生きたいと思う。多くの人は豊かになれば人は幸せにいきられると考える。ではどのくらい豊かであれば幸せなのか。欲をかけば切りがない。欲に振り回され、安らぎのない生活強いられる。人は簡単に欲望の奴隷になってしまう。儲けたお金を何のために使うか。それをしっかり考える必要がある。他人を助けるために使うか。それともただ自分の満足に使うのか。後者は悪徳に過ぎない。
- * 国の予算の問題を考える前提として、私たちの社会をどういう社会にしたいのかを考える必要がある。私たちの社会は本当に人間が人間らしく生きられる社会であるのか。そもそも人間らしく生きられる社会はどういう社会であるのか。民主主義の社会では私たちは皆等しく根本的な自由の権利の享受を保障されている。誰もが政治に参加する権利を有することになっている。しかし明日の生活がままならない人に政治のことを考える余裕があるだろうか。必要を満たすことに追い回されている人間が政治的権利を行使する現実的な自由があるかは疑問である。自由の権利が絵に描いた餅にならないために最低限の生活が保証される

必要がある。それが保証された社会を作ることこそ政治の義務であるが、私たちの社会の現実はどうだろうか。

- * 憲法25条は、私たちに最低限度の文化的生活を送る権利を保障している。人間らしい生活のビジョンを持つ必要がある。この問題はこれまで余り議論されてこなかった。税の使われ方もこの観点から議論しなければならない。もっと税の使われ方について政治に要求する必要がある。
- * 生活保護を受けている人は結婚できなくはないが、自由に結婚することを制限されている。また自動車も所有することも認められていない。認められるのは、ある意味で、食うことと屋根の下で寝ることだけである。
- * 生活保護の対象になっている人は、定期的に役所へ行って、自分の生活保護の必要を正当化しなければならない。お願いしなければならない立場の者が人としてのプライドを保つことは難しい。
- * 以前、人間の生活の権利の保証が争点となった裁判があった。朝日訴訟と堀木訴訟である。一か月に、シャツ一枚しか買えないのが「文化的生活なのか」が争われた。憲法で文化的生活が保証されている。その中には、当然、教育を受ける権利、劇場に出かけて、映画や芝居を見る権利、コンサートに行く、本を読む権利なども含まなければならない。その点で生活保護は憲法の規定を満たしていないと言える。
- * フィリピンは民主主義がまだ未成熟なことかもしれない。自分が現地で目撃したことだが、フィリ



タシギ

ピンでは選挙の際投票所の前に、投票所に来た人にお金を渡して、特定候補に票を入れさせようとする人がいる。地域で買収の金額も異なっていて、ある所では日本円で2000円程度、別の地域では3000円程度。貧しい人たちは進んで買収を受け入れている。かつての独裁者マルコスの子で、現大統領マルコス氏は、沢山の票をお金で買った。

* 防衛費が異様に多くなることも、原発にお金が使われることにも納得ができない。腹立たしい。その分税金を払わずに済ませたらいいのにと。税不払いの運動が起きることを期待したい。

* かつてカリフォルニアで、税金が軍事費に使われることに納得できないので、その分の税金を差し

引いた額しか払いません、という人がいて、裁判になったことがある。結果がどうなるにせよ、日本でもこういう形の異議申し立てがあってもいいのではないかと。今後納税者の意思表示が積極的に行われることを期待したい。

* 税の使い道に関して、納税者が希望を述べるシステムがあってもいいのではないかと。



カルガモ

<意見交流を終えて> 吉田千秋

今日はテーマが大きくて、意見が出しにくいってことがあったかもしれません。ただこの問題に、国民はもっと関心を持つ必要があると思います。何らかの形で、子どもも、生活保護の受給者も、例外なく税を取られています。私たちは、政治家任せにしないで自分の払っている税金がどう使われるのか、無駄な使い方がないか注意深く見守る必要があります。何

が必要なのか意見は人によって異なっているでしょう。でも議論して、思っていることを表明することが重要です。国家財政が行き詰っている中、人口減少に直面して、極めて困難課題に直面しています。国家財政の現状について、今後ともしっかり認識しなければならないと思います。

<例会及び「通信」の感想、意見、便りなど>

○<国民アンケートしてみたら・・・>

国家予算ですが、国民アンケートしたら面白いなと思いました。自分の税金をどの項目に使うのか考えて計算して配分してみる。そして、国民総合計を出してみるなんてことしたら国民は関心が持てるだろうし、政府と国民の差が明らかになるし、なんて思いました。(子猫)

○<プログラム支出を増やすことが必要>

腹が立ち希望のない話ですが、日本の国家予算は支配層(=官僚・大企業・自民政治家)、およびそれに連なる上層国民の利益になるために使われているのは事実でしょう。そのような裁量支出(=支配層が自由に使える金)を抑制し、プログラム支出(=社会保障費のような使途が決まっている金)を増やすこ



とが大多数の日本人にとって必要だと考えます。そうするとプログラム支出の中でも年金などよりベーシックインカムの方が公正で文句の少ない制度ではないかと自分は思います。その実現のために既存の制度の維持が不可能なことが誰の目にも明らかになる日が早くくることを望みます。だが、その時に支配



カワアイサ

層が戦争というショックドクトリンを選択するんじゃないかと危惧してしまいます。(たなか)

○<農政関係は未だに「NO政」予算・・>

農林水産関係予算の概要で、要求は2兆7209億円だったのですが、2兆2686億円と4500億円ほど削減され、今年度よりわずか3億円の増加です。食糧増産などの面では 食料の安定供給の確保では3015億円と35億円の削減、公共事業関連は7000億円弱を維持で、どこに税金が移っていくのか「還流」しないことを危惧します。「持続可能な農業」といっても「機械や流通」などには配分がありますが、直接生産する現場や災害復旧などの基盤には配分が少ない状況です。NO政と言われて久しいですが、どこに目を向けているかですね。(のぐち)

○<国家予算、本当にこれで良いのですか？>

歳出の無駄遣いは多く、国民による監視強化が必要である一方で、一般庶民にとって歳入である税金の不公平感はとて大きい。岸田首相は以前自民党総裁選にあたり、所得倍増計画と所得税負担率での「1億円の壁」の是正を政策提言にあげたが、「所得」倍増は「資産所得」倍増に書き換えられ、資産がないものは対象外となった。さらに総所得1億円以上の所得税負担率の壁も、いつの間にか立ち消え状態になっている。・・現在の複雑な税制は情報力のある富裕層有利は明らかで、情報格差が生じないシンプルな税制へ抜本的改正が必要である。(ryosa)

○<国債の異常な依存について>

財政の国債依存については、①外国人投資家による「買い」が比較的少ない。②日銀が発行残高約1000兆円の半分程度を市中から買い取っている。③政府が国債の償還や利子払いに充てる支出は②の結果、半分は日銀が受け取り、政府に還流する。な

どで「破綻」はないとみなされてきた。

だが、「既に危機的」とする説も有力だ。①日本の国債依存度(GDPの約2倍、国家予算の約10倍)は先進国中で突出して高い。②景気低迷下の財政拡大は、国債増発と日銀の大量買い増しと超低金利政策で実現してきた。が、日本経済は長くジリ貧で、将来世代の負担は増すばかり。利上げが迫られれば金融制度が崩壊。③現に、近年欧米ではインフレが進み、金利を上げて対処しているが、日本では②のため利上げが難しく、物価上昇と円安に無策。④アベノミクス以来、日銀は上記の諸策の外、株の大量買いで「株高」を演出？その結果、市場の持つ自律的調整力をも壊しているとの指摘も。(フィリピンウオッチャー)

○<もの言えぬ若者たち>

ポポロではオンラインで遠く離れた仲間とも月に5~6回の交流を続けています。その中では、哲学カフェに参加した感想なども語られます。

先日、初めて哲学カフェに参加した人から、次のような感想がありました。「ああいう意見があってもいいかと思った。急に振られたが、意見は言えた。いろんなことに、疑問に感じたが怒ることはない」。そして「弱者男性(サイレントマジョリティ)についても議論したい」ということでした。

大きな誤解もあるようですが、若い人たちは「議論すること」に慣れていません。どうも彼らは「議論を「相手をやっつけるもの」と勘違いしているような気がします。そのように捉えると、哲学カフェは、「強い大人」たちの議論の場であって、「弱い大人」の自分は議論になかなか入れないと感じているようにも思えます。

こんな意見もありました。「サイレントマジョリティは“静かな大衆”すなわち“物言わぬ多数派”です。でももしかしたら“マイノリティ”と言いたかったのかもしれないと推測。“立場が弱く偏見を持たれたり、差別されたりすることがあるので『社会的弱者』”という意味でつかわれる”とありました。哲学カフェのテーマは、サイレントマジョリティ、マイノリティでもいいですね」

どうも世代間の対話交流のカギがこのあたりにもあるのかもしれませんが。社会は強硬な大きな声の少数派によって動かされている感もあります。民主主義にも通じるテーマかもしれません。(中川)

<この一冊> 太田 愛 著『天上の葦(上、下)』 角川文庫、2019年刊

あの渋谷スクランブル交差点の昼下がり、そのど真ん中で空を指差して「謎の死」を遂げた老人がいた。その稀有な事件から物語は始まる。謎は、空間を超えて、瀬戸内の小島での逮捕劇で、解き明かされることになる。

あの指先には、「報道に対する権力の介入を許すまじ」との魂の叫びが込められていた。敗戦前後の「地獄」を見た世代の、決して譲ることができない「鉄の信念」でもあった。

「これ、松本清張みたい」とカミサン。この物語、太平洋戦争から右傾化が案じられた安倍政権辺りまでの日本近現代史が背景。だが、それは戦時の激しい報道統制に抗し苦闘した者のとらえた実像だ。これが太い横糸となって、歴史の醸した課題を活写している。

縦糸は、興信所調査員二人と休職中の一人の警察官が、知恵と勇気で熱く真実に迫る、胸をすくようなサスペンス。彼らには、政府守旧派に忖度する公安が、大手メディアもグルで、強固な阻止戦を張る。この攻防は、スマホなどを駆使した21世紀型情報戦だった。

人や場面は架空でも、憲法9条と言論・報道の自由についての究極の現実的意味を、見事に照らし出している。また主な登場人物は、青春期に挫折を経験

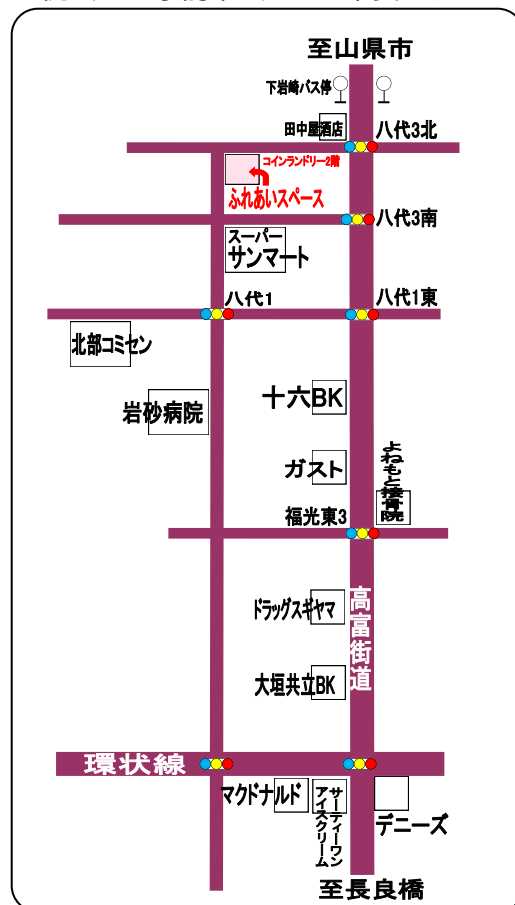
した名もない非エリートの庶民。著者の彼等への眼差しがやさしい。そして、後半に出てくる90代の老人達も、真に格好イイ！ こんな人生の最後なら、憂いを残さずに逝ける？ と感じさせてくれる。



ヨシガモ

例会会場案内

例会への事前申し込みは不要です



哲学カフェ189回例会

日時: 2024年3月14日 07:00 PM
参加 Zoom ミーティング
[https://us02web.zoom.us/j/89533398852?](https://us02web.zoom.us/j/89533398852?pwd=SU9rdG9lekExOUdCRi82RW9ncnpMZz09)
[pwd=SU9rdG9lekExOUdCRi82RW9ncnpMZz09](https://us02web.zoom.us/j/89533398852?pwd=SU9rdG9lekExOUdCRi82RW9ncnpMZz09)

ミーティング ID: 895 3339 8852
パスコード: 224160

右のQRコードからも参加できます。
お手持ちのスマホでQRコードを読み取るとそのまま入場できます



哲学カフェ 第30期(2024年前半)例会予定 *毎月第2木曜日、午後7:00~9:00

ふれあいスペース⇒コロナ警報で中止の場合あり、テーマも変更あります。連絡下さい。

第189回 3月14日(木)	「災害列島日本・・・「想定外」で済ませないために。」 *今回の「能登半島地震」も被害甚大。またまた「想定外」?! こんなことでよいのか? *異常気象が常態化する中で、今こそ「安全の哲学」に基づく備えが必要でしょう。
第190回 4月11日(木)	「ちょっと待った・・・強行される学校統廃合」 *いま岐阜県内あちこちで学校の統廃合が、子どもの減少を理由に強引に進められています。 *だが、それは教育予算削減策であって、よき教育としての少人数教育を放棄することになるのではないか。
第191回 5月9日(木)	テーマをお寄せください
第192回 6月13日(木)	テーマをお寄せください

哲学カフェの運営資金の協力も、よろしくお願ひします。

口座記号・口座番号 00810 1 142912

加入者名 哲学カフェ de ぎふ、千秋まちかど文庫

「哲学カフェ de ぎふ」ホームページ 毎回更新中!!

<http://tetsugakucafegifu.jimdo.com/>

右のQRコードをスマホなどで読み取ると、「哲学カフェ de ぎふ」のホームページが開きます。ぜひ閲覧願ひます。友人・知人に拡散いただければ幸いです。



わいわいがやがや



アラカルト

★先日、ある本の中で、50年以上も前の論評ですが、面白い下りがありました。今でもそっくり当てはまることなので、そのまま以下に引用します。

★「どこの社会でも悪いところを取り締まる法律は必ずあります。ところがこの法律、あるいは制度というものは、とかく権力のある人には弱く、そして弱い人に対してはきびしい。そういう傾向があります。これは世界的だと思ひますが、現在の日本なんかでも、一番悪いことができる地位は国会議員さんでしょう。

★これは制度の上ではそうではないんですが、自然まあこうなるといいですか、あるいは議員さんのこしらえる法律だからそういうふうになったのかどうか知りませんが、とにかく

議員さんが一番悪いことができるようである。あるいは位の高いお役人、この方がわれわれ庶民よりは悪いことができるようになっております。

★何百万円というお金をもらっても、もらい方によって罪にならない。自分がもらうと賄賂になるけれども、秘書さんが受け取ると賄賂にならない。なんでもそういうもらい方があるようして、それで非常に不公平であるといひますか、われわれ庶民からみると不公平どころでは済まされない問題であるように思ひれます。」

★事程左様に、今回の「自民党派閥による政治資金パーティ裏金事件」は、日本国にとっては深刻な問題を含んでおります。なぜこのような悪事が繰り返されるのか。このような自民党政権を許してよいのか。国会議員の責任はもちろん、日本国民の良識が問われています。

(島田幹夫)